

2024年3月期決算説明会 質疑応答概要
(2024年5月14日開催)

Q1. 来期の通期の利益計画が控えめに見えますが、何か不安要素があるのでしょうか？

A.(回答者:柿崎)

2024年3月期はシステム運用・サービス事業でLINEヤフー社からの受注減が業績にインパクトを与えました。こちらの回復について保守的にみている部分がございます。更にソリューションサービス事業のクラウドビジネスへのシフトによる影響も加味し、控えめに計画を立てております。なおLINEヤフー社のグループ会社には積極的に営業を仕掛けており、徐々に業績回復していく見込みです。

Q2. 来期の配当計画が51円と配当性向40%を超えていますが、将来的に還元方針を変更する予定があるのでしょうか？

A.(回答者:柿崎)

今すぐに方針を変えるつもりはありませんが、将来的には株式市場の動向含めて検討し、変更する可能性はございます。今回の決算では記念配当からの増配、自己株式の取得など積極的な株主還元をさせていただいております。この流れは引き続き維持していきたいと考えております。

Q3. 現金が積みあがっているように見えますが、今後こういった使い道を検討しているのでしょうか？

A.(回答者:鳥屋)

6月末を予定しております中長期の経営計画の中で適正な額の判断をしたいと考えております。重点戦略にもありました、ストックビジネスの拡充、HR周辺サービスへの投資や人的資本の最大化と株主還元を両立できるような形で検討を進めてまいります。

Q4. HR周辺サービスへの投資・展開強化ということですが、今期の投資、費用の内容と水準について具体的に教えてください

A.(回答者:柿崎)

具体的な投資費用に関しては回答を控えさせていただきますが、強化の内容としましては他社の製品やクラウドベンダーとの連携強化や主要顧客であるアマノ社との製品がよりシームレスに繋がるようにするなど様々な面で今期から積極的に投資をしていくことを想定しております。昨年まではお客様のニーズを吸い上げながらの機能強化レベルで投資を留めていたものを、サービスレベルの投資に変えていきたいと考えております。

以上